

中等習字教本

森下松衛編
香川松石書
卷三

K220.72
28
3

K220.72

28

3

香川松石書

中等習字教本



卷三

子安言也也也

田魚直物滿

水名有習者宜

海州何備津津

樓樓終終
輕輕

察察
對對
友友

東坡先生集卷之四

三ノ四

先生集卷之四

威威塾塾熱難難

三ノ五

後後渡連連連

谓学不暇者

暇尔不能学

士不可以不弘

三ノ七

毅任重而為遠

學而不思則罔

三八

思而不學則殆

國以簡賢為務

三ノ九

賢以孝行為首

富家不用家心田

三十一

山中自有子鐘粟

安居不用架高臺

書中自有黃金屋

府邸に百餘部の書あり見
て志を考山紀談一讀し
度

當時書不用者は三日間
持借致さるる如し
也清聴許

を以て大孝小忠座の故首。
謹啓今日にいらる事

を申上るる實心多き事
小忠座の人も老父の子昨表

末發熱甚くある言は看
護小油断せざるやう醫師也

注意これあり由て血約束
の毒足らぬに減あつらふ也

いづれのねを旨悪からず
出了承願ひあげしおれ。

今田令息の御姪儀おとと
おし来り世に披露のため

とそ態と古詭招を奉りし
有り難之儀礼中上げの業障

を挑ても業止つてまじき善よ
以ての十言より有命による

て廣島縣へ出張致す筈の
日甚く憾あらざるに厚意に

お前様申すべしは品粗末なる
ら祝賀の寸志を表すまで

ふ逢星のたしを敬也。

入院中は度々虫見舞下

きし法厚情の程感謝ふ堪
へるも至及法陰様を病

七全治の一時の返院仕合
居安の心を成るの心

未及四時迄よるる
少高子儀して祝意を奉

夜の音は空を渡る鳥の足音
下さる夜は空を渡る鳥の足音

内中志あげをさす。

明治六十年三月三日

形どり如法事相等心積り
おのゝに法を應致すべし者

もあらねど是を見に七弟生家
如文海よふかあしはるしん

おれ等も此の由事光を頼し
及山守も学業おかげも

おれ等も満更の由事申す所
と存の先にお招きもて謹言

樹欲靜而風不息
子欲養而親不待

學善易其德日新
遂非則至惡弥積

男兒立志出鄉關
學家不來死不還

埋骨何處是墳塋
人間到處有青山

久方の月を桂も折るはらり

あはれ月をよめあはれくしのね

君の母を母とて尊ぶるは孝の道なり

三六

孝の道は親を敬ふ事なり

3-27頁欠

2000.7

松石香川集書



明治三十九年十二月十八日印刷
明治三十九年十二月廿二日發行

定價金貳拾錢

編者 森下 松衛
書者 香川 熊藏

東京市神田區乘物町九、十番地

發行兼印刷者 明治圖書株式會社
專務取締役 三樹 一平



發行所

電話本局八九二番
電話本局一六四番

明治圖書株式會社

[The page contains dense, illegible text, likely a scan of a document with a very low resolution or significant noise. The text is organized into several paragraphs and possibly a table or list, but the individual characters and words are not discernible.]